

2017年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

(進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。)

<p>2016年度大学評価（認証評価）結果指摘事項</p> <p><概評></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流センターが所管する留学生科目の方針については、各学部・学科との今後の協議が期待される。 ・教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性については、「学校法人大東文化学園自己点検・評価推進委員会」と「大東文化大学自己点検・評価委員会」が責任主体となり検証しているが、検証の過程において、学生への周知に関する有効性を検証できていないとしており、周知に向けた今後の検討を期待したい。
<p>2016年度外部評価委員会指摘事項</p> <p>なし</p>
<p>前年度からの課題（2016年度点検・評価シート IV次年度への課題 より転記）</p> <p>なし</p>

I 評価項目・担当部局

対象部局	外国語学部
評価基準4	教育内容・方法・成果
中項目 4-1	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 【自己評定 B】
点検・評価項目(1)	4-1-1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示
	教育目標と学位授与方針との整合性
	修得すべき学習成果の明示
点検・評価項目(2)	4-1-2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
点検・評価項目(3)	4-1-3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(4)	4-1-4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価 対象期間は2016年4月～2017年5月までとする。(教員数、学生数などのデータの基準日は2017年5月1日)

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-1-1	<p>外国語学部は、学部の教育研究上の目的に基づき、以下のように学部の学位授与方針を定めている。</p> <p>外国語学部は、所定の単位を修得し、以下のような能力や知識を備えていると認められる学生に卒業を認定し、学士（中国語学または英語学、日本語学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専攻言語で専門分野に関する内容について議論することができる程度の運用能力を修得している。 2. 専攻する地域の文化、社会、歴史等に関する知識を基礎として、国際社会で貢献できるだけの幅広い教養と国際的知識を修得している。 3. ITスキルに関する知識を駆使して、必要な情報を収集・分析し、結論を導き出す能力を修得している。 4. 専攻する地域の文化、社会、歴史等についての問題意識を持ち、自らの視点で考えをまとめ、発表する能力を修得している。
4-1-1	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>学位授与方針の策定について【○】</p> <p>具体的事例：2018年度公開に向けてディプロマポリシーの新規策定を行う。</p>
4-1-2	<p>外国語学部の教育課程の編成・実施方針は、教育目標と学位授与方針を踏まえて、以下のように明文化されている。</p> <p>外国語学部は中国語学科、英語学科および日本語学科から構成されており、3学科それぞれが専攻言語およびその言語が使用される地域の文化、社会、歴史等の学修を通じて、幅広い教養と国際的視野をもつ外国語のスペシャリストとして活躍できる人</p>

	<p>材を養成するため、以下のような特色をもった教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ネイティブスピーカーの徹底指導により、専攻言語の読む・書く・聞く・話す能力を総合的に修得させる。 2. 修得した言語能力を幅広く活用するための異文化やITスキルに関する知識を修得させる。 3. 半期 Semester 制の特徴を活かし、各学科独自の留学制度、現地研修制度、さらにダブルディグリー・プログラムを通じて、専攻言語の実践的な語学力を向上させ、異文化理解をさらに徹底したものとする。 4. 専攻する言語を日本のみならず国際舞台で幅広く活用できる教員を育成するため、外国語教授法や国際関係についての知識を修得させる。 5. 少人数クラスやゼミ等を通じて、自分の力で情報を収集・分析し、結論を導き出し、発表する能力を養成する。 <p>科目区分、必修・選択の別、単位数等は、学則および学部の履修の手引き『徑』等で明示している（A4-1-1 第 23 条の 10～12、A4-1-9 p.142～p.144、B4-1-12 d2-表 21）。</p>
4-1-2	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 教育課程の編成・実施方針の策定について【○】 具体的事例：中国語学科では 2018 年度からカリキュラム改訂を行い、教育課程の再編成を実施する。</p> <p>(2) 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示について【○】 具体的事例：2018 年度公開に向けて三つのポリシーの新規策定を行っている。</p>
4-1-3	<p>学部と中国語学科・英語学科・日本語学科の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、ホームページで公表している（B4-1-2）。学位授与方針、教育課程の編成・実施方針については、学部は外国語学部の履修の手引き『徑』、にそれぞれ掲載している（A4-1-9 p.3～p.9、p.38～p.69）。</p>
4-1-3	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 大学構成員への周知方法と、その有効性について【×】 具体的事例：評価はAと記述されているが、新たな取り組みとして有効性を検証するシステムが示される段階には至っていないので、評価をBに修正すべきである。</p> <p>(2) 社会への公表方法について【×】 具体的事例：</p>
4-1-4	<p>教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性については、毎年度の自己点検・評価において、定期的に検証を行っている（B4-1-6）。責任主体・組織は最終的には学部教授会であるが、今後は、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を見直しと併せて、権限、手続きに関しても明確にしていく。</p>
4-1-4	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：</p>

【効果が上がっている事項】

4-1-1	2018 年度公開予定の新規ディプロマポリシーが策定され教授会での承認を経ている。
4-1-2	
4-1-3	
4-1-4	

【改善すべき事項】

4-1-1	
4-1-2	
4-1-3	・教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の学部構成員への周知法とその有効性を検証するシステムについて検討がされていない。
4-1-4	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-1-3 ・教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の学部構成員への周知度を組織的に	・検証システムの構築と検証結果の公表			B	C	

	検証するシステムを構築する。				
16年度 目標	4-1-3 ・教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の学部構成員への周知法とその有効性を検証するシステムについて、学部将来構想検討委員会などを中心に検討する。	・検討の結果が学部教授会に報告され、ホームページ等と通じて周知されている。	A		
17年度 目標	(対象期間は2017年4月～2018年3月) 4-1-3 ・新たに策定される教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の学部構成員への周知法とその有効性を検証するシステムについて、学部教務委員会などを中心に検討する。	・学部構成員への周知法とその有効性について学部教授会に報告される。	B		

IV 評価専門委員会所見

4-1-1、4-1-2【現状】(1)(2)の3項目が取組またはその成果が有(○)で、それぞれ具体的事例も明確に記述されていました。

4-1-3【改善】【目標】16年度目標「教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の学部構成員への周知法とその有効性を検証するシステムについて、学部将来構想検討委員会などを中心に検討する。」は評価Aとされていますが、改善事項では「周知法とその有効性を検証するシステムについて検討がされていない。」と記述されています。記述内容と評価が整合していないのではないのでしょうか。

4-1-3【改善】【目標】17年度目標の達成に期待します。

V 所見への対応

4-1-3【改善】【目標】ご指摘頂いたように、「周知法とその有効性を検証するシステムについて検討」する点は不十分であるため、評価はAに相当せず、B、あるいはCとすべきかと思われます。

VI 次年度への課題

周知法とその有効性を検証するシステムについて具体的な検討に入る必要がある。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-1-1 大東文化大学学則 <既出>A1-1
A4-1-4 大学案内「CROSSING2016」 <既出>A1-6
A4-1-9 外国語学部 経（履修の手引き）
B4-1-1 大学ホームページ（建学の精神・教育の理念）<http://www.daito.ac.jp/information/about/idea.html>
大東文化大学の基準別基本方針 <http://www.daito.ac.jp/information/about/basicpolicy.html>
<既出>B1-5
B4-1-2 大学ホームページ（情報公開）<http://www.daito.ac.jp/information/open/index.html> <既出>B1-6
B4-1-6 大学ホームページ（自己点検・評価活動）
<http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html> <既出>B1-16
B4-1-12 大学データ集 <既出>B1-22

〔追加資料〕